

生徒会スローガン：互いに尊重 仲間と成長 頑張りを認めあえる学校をめざそう！

西中 生徒会ニュース

茨木市立西中学校

第12号 2020年2月27日(木)

3月の生活目標 【 仲間に「ありがとう」 】

明日、3年生を送る会を行います。3年生はこれまでの西中での生活を振り返りましょう。そして、次のステージでも、日常を大切に、仲間のことを考えられる人になってください。

1、2年生も新たな学年として4月からスタートを切ります。気持ちの準備をして、72期生を迎えましょう。

<生徒会本部より>

3年生を送る会では3年生が西中で過ごした、3年間から学んだこと、感じたことや思いを私達在校生へ伝えてくれる場です。また、3年間の成長を振り返る場でもあります。3年生のみなさん、3年間で振り返ってどうですか？この3年生を送る会が終わった時に、「西中を卒業するのが寂しい」「3年間で楽しかった」などと思ったり、「次の進路でもがんばろう」という気持ちになってくれたら嬉しいです。

昨年、「全員でスタート 全員でゴール 仲間のことを考え 自ら行動」という言葉を68期の先輩から受け取りました。当日、3年生の69期の先輩方から私達に贈る言葉がたくされます。1、2年生は先輩または最上級生になる自覚を持ちましょう。

28日はこの学年が集まる最後の集会です。全員が楽しみ、そしてしっかりとこれまでの西中生活を振り返りましょう。

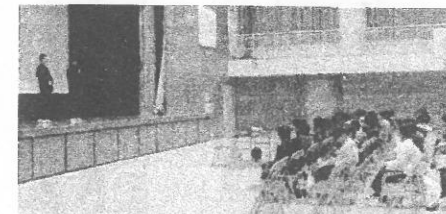
新入生オリエンテーション 2月10日



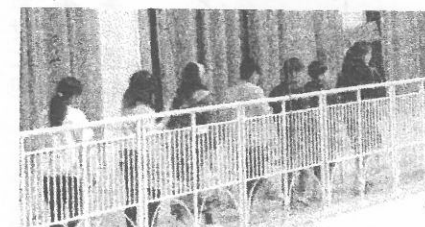
今月10日に、4つの小学校の6年生が西中に来てくれました。体育館では、本部から6年生にインタビューやクイズをしたり、DVDを見てもらったり



して、西中のことを知ってもらいました。班＝家であるということ、学級目標をゴールとして一年間を過ごすこと、また、クラスのハットちゃんや優しさの木についても伝えました。制服紹介もしました。



6年生のみなさんは、和やかな表情で話を聞いてくれていました。



1時間のオリエンテーションのあと、2年体育委員の引率で部活を見学してもらいました。最初から最後まで6年生を誘導してくれました。6年生は、体育館や教室、グラウンドの部活

動を、時間を惜しむように観ていました。少し予定時間が過ぎてしまったにもかかわらず、本部と体育委員が、門のところで6年生に手を振って見送りをしてくれました。



西中のいいところを72期生にも引き継いでもらいたいですね。

小学校6年生の国語の教科書(東京書籍)の最後に載っています。

「君たちに伝えたいこと」 日野原重明

君が今、12歳あたりだとすれば、95歳を過ぎたわたしの年齢は、君のおよそ8倍です。時間の長さについてだけいえば、君が今日まで生きた年月を、わたしはもうすでに8回もくり返してきたことになります。

さて、君のおよそ8倍長く生きているわたしから、君に「寿命」の話をすることにしましょう。

「寿命」とは何か。「寿命」とは、生きている人のいのちの長さのことなんです。

つまり、その人にあたえられた、生きることに費やすことのできる「時間」です。それは、生まれたときに、

「はい、君は日本人ですね。では、今のところ、日本人の平均寿命は何歳ですか、何年分の時間をさしあげましょう。」と、平均寿命に見合った時間を、ぼんと手渡されるようなものではありません。

それではまるで、生まれた瞬間から寿命という持ち時間を、どんどん削っていくようで、なんだか生きていくのがさみしい感じがしてきます。

わたしがイメージする寿命とは、手持ちの時間を削っていくというのとはまるで反対に、寿命という大きな器の中に、精一杯生きた一瞬一瞬をつめていくイメージです。ぼんやり時間を過ごそうが、何かに没頭して過ごそうが、時間をどう使うかは、ひとりひとりの自由に委ねられています。もちろん、今の君の1日は、学校の授業や塾やおけいこごとでぎっしりスケジュールが組まれているかもしれませんが、それでも、その決められた時間を集中して過ごすか、居眠りしながら過ごすかは、君次第です。

その時間の質、つまり、時間の中身を最終的に決めているのは、君自身ということなんです。

時間いうものは、止まることなく常に流れています。けれども時間というものは、ただの入れ物にすぎません。そこに君が何を積みこむかで、時間の中身、つまり時間の質が決まります。

君が君らしく、生き生きと過ごせば、その時間はまるで君にいのちをふきこまれたように生きてくるのです。

わたしがこれから先、生きていられる残り時間は、君に比べるとずっと短いでしょう。

けれども、それだけにいつそう、一瞬一瞬の時間をもっと意識して、もっと大事にして、精一杯生きたいと思っています。

そして、できることなら、寿命というわたしにあたえられた時間を、自分のためだけに使うのではなく、少しでも他の人のために使う人間になれるようにと、わたしは努力しています。

なぜなら、ほかのひとのために時間を使えたとき、時間はいちばん生きてくるからです。

君が生まれたときに、君の周りにいた人たちがどんなに幸せに包まれたかを、君は想像したことがありますか。小さな君が笑うたびに、きっと君のそばにいただれもが、思わずにっこりと微笑み返したことでしょう。

君が体いっぱい泣いていれば、そばにいた人たちは、どんな用事で忙しくとも、その手を止めて、君のもとにかけ寄ったことでしょう。

そうやって君のお世話をするのが、そばにいた人たちには時々

とても疲れてしまうことがあっても、そうすることはそばにいた人たちにとって、ほかの何ものでも味わうことのできない喜びでもあったのだと思いますよ。だからどんなに忙しくても、疲れていても、小さな君のためなら、そばにいた人たちは精一杯尽くしてくれたのです。

なぜ、そうやって君を世話することで喜びが湧いてくるのか。そしてどんな喜びだったのか分かりますか。

それは、自分の時間を純粋に君のために使っていたからこそ、湧いてくる喜びだったのです。ほかの人のために時間を使うということは、自分の時間が奪われて、損することではないのです。

それどころか、ほかのことでは味わえない特別な喜びで心がいっぱい満たされるのです。こんなに大きなお返しをもらえることなんて、めったにありません。

私が自分の時間をほかの人のために使うことに努力している理由が、これで君にも分かったでしょう。だから、わたしは君にも、ぜひそうしてみることをおすすめします。

さて、ここまで私は、寿命という時間の使い方についてお話ししてきました。時間というものはただの入れ物にすぎないのであって、そこに君がいのちを注いで時間を生かすことが大事だという話をしましたね。

そして、自分のためだけでなく、ほかの人のために時間を使えるようであって欲しいとお話ししました。

でも長い人生においては自分の思うとおりにはいかないこともたくさん出てきます。

君が自分で選びとったわけでもないのに、つらくて悲しいことにも出会わなければならない日が、この先にはあるかもしれません。そんなときには、いつものきみのように、前向きにものごとを考えたり、かつこよく過ごしたりなんて、とてもできなくなりますね。悲しいときの自分なんて消してしまいたいと思うことさえあるかもしれません。

でもそんなときにも、忘れないでいて欲しいことがあります。

嬉しいときだけが、「君」ではありませんよ。

笑っているときの君だけが、「君」では、ありませんね。

悲しいときの君も、はるかしくて消えてなくなりたいと思うときの君も、「君」なのです。

だから、つらいときや悲しいときの自分も大切にしなければなりません。

成功して喜びでいっぱいになっているときの君も、失敗してなみだを流す君も「君」です。

どんなときの自分も大事にすること。

自分のことをいつも大好きだと思っていること、これはとても大切なことです。

だから決して忘れないで下さい。

君が生まれてきて、今ここに、こうして同じときを生きていけるということとは、とても嬉しいことであり、一つの奇跡のように素晴らしいことなのです。

今、私が君にこうして語りかけることができるのも、君がそこにいて、私が、ここにいるからでしょう。

それは本当に素敵なことなのです。